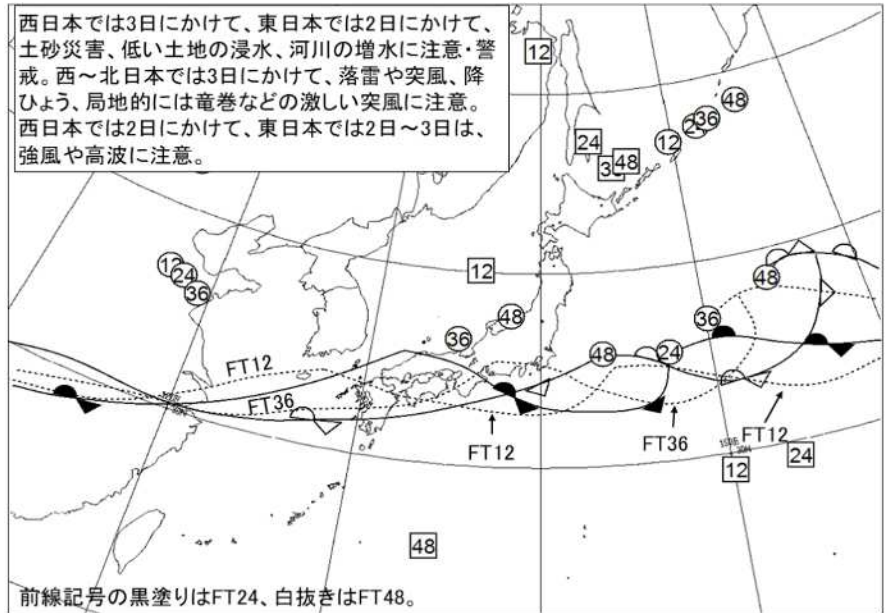


### 1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5880m付近の正渦度帯に対応の前線が華中から九州を  
通って伊豆諸島南部付近へのび、東シナ海には前線上の波動が  
あって東進。この付近では下層暖湿気が収束して対流雲が発達。  
チェジュ島付近で激しい雨を解析。
- ② オホーツク海に500hPa -18℃以下の寒気を伴った寒冷渦が  
あって南東進。寒冷渦を回るトラフに対応した低気圧がオホーツク海を東進。
- ③ 東～北日本は前線の北側ではあるが下層暖湿気が滞留して  
おり、上空寒気の影響もあって、6月30日は夕方から夜にかけて、雷を伴い非常に激しい雨が降った。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線上の波動はキンクとなり、キンクは500hPa 5820m付近の浅いトラフと共に、対馬海峡から西日本を通して2日夜には関東の東へ進み、西～東日本には850hPa 345K以上の暖湿気が流入する。前線の南側では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。西日本では3日にかけて、東日本では2日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。特に九州北部では1日は、前線のキンク付近で下層暖湿気が収束して降水量が多くなりやすいことに留意。
- ② 1項②の低気圧は千島近海を東北東進し、低気圧から西にのびる気圧の谷が1日は北海道地方を南下する。上空寒気や下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北海道地方では1日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 1項③の日中の気温上昇や上空寒気の影響は引き続き、トラフに対応して2日朝には日本海に発生した低気圧が3日にかけて北陸地方付近に進む影響もあって、大気の状態が不安定となる所がある。西～北日本では3日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ④ 2項①の前線やキンクと2項③の低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて波が高くなる所がある。西日本では2日にかけて、東日本では2日～3日は、強風や高波に注意。

### 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項

- ①の前線及び前線上のキンクの位置、2項③の低気圧の位置には、不確実性があることに留意。

### 4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：九州北部200、四国150、近畿・中国・九州南部120mm。
- ② 波浪(明日まで)：伊豆諸島・近畿 3m。

### 5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。